

## 堆肥化パイロット事業

ウボン・ラチャタニ県及びクラビ県において、生ごみ堆肥化に向けた基礎調査をもとに、具体的な計画案を提示。その実施に向けてのマネジメントと技術的な支援を年間を通じて行い、事業の端緒を付けた。

この調査は、NPO伊万里はちがめプラン、佐賀大学、チュラロンコン大学が担当した。

### ワリンチャムラム自治体

#### Warinchamrab Municipality (ウボンラチャタニ県)

人口3万4千人、面積12.9km<sup>2</sup>の半分が都市化されており、東北部では二番目の規模となる市場がある。公営の管理型埋め立て方式ごみ処理場があり、日本で開発された環境負荷が少ない最終処分方法である。一日約30トンのごみを処理しており、そのうち10～15トンが野菜や果物などの生ごみであると推測される。自治体が収集している廃材や落ち葉、水路に繁茂するホテイアオイなどは無料～安価な資材(廃棄物)でありワリンチャムラム自治体特有の堆肥材料になる。



キックオフミーティング



生ごみ堆肥の仕込み



クッペン村堆肥製造所



仕込みを終えた堆肥



自治体職員と共同作業



液状肥料



堆肥で栽培したブロッコリー



キックオフミーティング



ワリン市場の野菜



国内有数の規模を誇る市場



閉店後は野菜くずの山



ホテイアオイの堆肥化実験



様々な試験区を設置



中学校の環境活動視察

はちがめプランにおける生ごみ堆肥の製造法技術の現地移転をはかった結果、含水率を60%前後に維持することで高温状態を1ヶ月以上維持することができ、衛生的にも優れた肥料となった。放線菌が土壌へ入ることによって土壌中の植物病原菌への抗菌性が高まり、農産物が病気に冒されるリスクが低下する。また、ホテイアオイには窒素成分も多く含まれているため、堆肥の材料としては適切な資材であり、特産堆肥の技術開発も順調に推移している。

Koh Lanta

